

## 児童虐待マニュアルを作成

市は、児童虐待防止の意識を高め早期発見に繋がるよう、関係機関が連携し、適切で迅速な対応のための「朝来市児童虐待対応マニュアル」を作成しました。

実際に相談があった際の対応の手順や通告の受理、家庭訪問などを、市役所職員の経験に基づいて具体的にやりとりを例に挙げて詳しく記載。そのほか虐待サインのチェックポイントや児童虐待防止のためのQ&Aも。手引書は民生委員・児童委員、保育所・幼稚園・小学校などに配布さ

れます。



A4版、36ページでカラー印刷です

## 全国鉱山シンポジウム開催

市と財団法人自治総合センターが主催する「全国鉱山シンポジウム」が3月5日、生野マインホールで全国モーターボート競走施行者協議会からの拠出金を受けて開催。鉱山が残した歴史文化資源を活かした地域交流や活性化を進めるため、佐渡や石見など日本の代表的な金銀山の関係者ら全国から約400人が参加しました。

記念講演では、国立科学博物館の鈴木一義さんが「日本の鉱山は、人にも自然にも配慮した優しい鉱山経営が行われていた

その文化を語り継いで伝えていくことが大切」と話し、参加者は熱心に聞き入っていました。



日本の鉱山文化を紹介する鈴木一義さん

われます。

安井谷河口部から西へ約1.5kmの地点、現在の安井集落西端の山麓部に近いところに、周囲より約20m程高い場所があります。この場所は竹田城から延びる2本の尾根に囲まれています。自然地形を最大限利用した形で防御ラインが形成されているのです。この区域の中に、城坂・ツシマ・松本(松ノ元)といった地名がみられます。現地には屋敷地跡と考えられる広い平坦地が存在しています。こういった居館を思わせる場所から竹田城への登城ルートが現在でも存在しています。これが太田垣時代の大手道と考えることができます。



赤松氏時代の城下町(現在の竹田の町なみ)

◆赤松氏時代の居館・城下町

天正期以降、秀吉による但馬侵攻が行われる天正5年(1577)〜8年(1580)を境に、その拠点を現在の竹田側に移したと思われる。城下町は、居館区域を中心として形成されています。竹田駅裏に集中する4ヶ寺の寺院群付近がそれに該当します。法樹寺の脇から城に至る道が大手道と考えられます。町の主要街路は、この居館区域を中心に配置されています。この街路を骨格として南北に長く町が作られ、更に水路などによって家臣団屋敷や一般の町屋などに分けられています。

竹田の城下町はこのような変遷をたどると考えています。しかし、慶長5年(1600)、城主赤松広秀の自刃により竹田城も廃城になると、城下町もその機能を失い宿駅としての形態に変化します。これが現在の町なみ景観の基礎となっていくのです。

(市教育委員会社会教育課)